

平成 25 年 2 月 18 日から 3 月 2 日まで伊賀内科・循環器科で実習をさせていただいたので、以下、実習へ至った経緯、また、実習前に立てた目標に対する評価を述べさせていただきます。(青字は私のコメント)

### 実習へ至った経緯

名古屋市で開業されている亀井三博先生が「亀井道場」という勉強会を開いてくださっています。その勉強会で伊賀先生に初めてお会い致しました。先生の勉強会では感度、特異度の高い検査を生かすには、まず[検査前確率](#)を上げることが大事であること。臨床実習に出るための作法、つまり上から下まで止まらない身体診察を学びました。その勉強会では私の今まで知らなかったことが聞け、大変勉強になりました。勉強会后、先生の病院のホームページで、実習生を受け入れてくださっていることを知りました。研修医となり働く前に先生のもとで勉強したいと考え、申し込んだ結果、先生が許可して下さい、今回実習させて頂けることとなりました。

### 実習前に立てた目標に対する評価

私が今回の実習前に立てた目標は以下のものです。

- ①聴診の技術の向上
- ②聴診以外の身体診察の技術の向上
- ③不安を抱えてこられる患者様が安心して帰る外来の進め方を知る  
(言葉の使い方、どのようにして患者様の解釈モデルを引き出すのか)
- ④伊賀先生の現時点での開業医としてのやりがいを知る

以下、それぞれの到達目標について実習を終え、感じたことについて書きます。

#### ①聴診技術の向上について

先生が名古屋で講義をされ、I 音と II 音は頸動脈の拍動を触知しながら同定するということを教えて頂き I 音と II 音は確実に同定できるようになった状態で参加しました。また、実習に参加するためのノルマである、正常な心音を 20 人聞くことも、同級生、部活の後輩に手伝ってもらい行って、私なりに自信が持てるまでにしたつもりでした。しかし、いざ先生の患者様に聴診してみると実習当初、心雑音に全く気が付くことができませんでした。(明らかな異常所見(キャノンサウンド)をみてもらうことにより、このことを気づいてもらうことは大切です。当方に来られた方、ほぼ全員当初はできていませんでした。)

また、実習に来るまで、恥ずかしながら、聴診所見はリズム、I音、II音、III、IV音、収縮期、拡張期雑音で雑音の最強点、強さ、収縮期雑音は頸部放散の有無と順番に述べていかなければならないことも知らなく、先生に教えていただきました。いかに自分の聴診が不十分なものであったのかを痛感させられました。さらに、所見を述べる時と同様の順番に丁寧に1か所ずつ聴診を行っていくことで、収縮期、拡張期雑音を聞き取れるようになりました。さらにギャロップ音を聞かせていただき、実習前にCDで聞いてきたギャロップ音と異なっていて、大変勉強になりました。

## ②聴診以外の身体診察の技術の向上について

聴診以外の身体診察の向上については、甲状腺に腫瘍をもつ患者様の触診をさせていただく機会がありました。今までの実習とは異なり、手取り足取り教えていただき、マンツーマンで身につくものが多いことを実感しました（**教育には時間がかかります。大学での教育のみではなかなか完遂できるものではないと思っています**）。

さらに恥ずかしながら今まで考えてこなかった、検査値の読み方、心電図の読み方についても教えていただきました。具体的にはAST、CKが上がっていると心臓の異常を考えるだけでなく、甲状腺機能低下症を考える。高齢男性で前回の検査値と比べてHbが下がった場合は、大腸癌であるかどうか精査する。心電図はまず、前回のもものと比較するという事です。心電図に関しては実習期間中に系統だった読み方を最初に先生に教えて頂きました。そして、大量に読む機会を頂いたので、心電図を見て行く際の眼の動かし方を身に付けることができたと思います（**学生さんは一つの心電図に一つの異常がかならずあるという前提でみている。大量に正常をみることで見落としがなくなると思います**）。

そして、何よりも勉強になったことは、検査の異常は、あくまでも検査の異常で疾患の有無を表しているわけではないということです。国家試験の勉強では、検査、血液データの異常から、疾患を考えさせその対応を問われました。そのため、伊賀先生の元へ実習に来る前は、頭の片隅で「検査での異常＝疾患あり」と考えていました。しかし、実際の臨床の場では、検査で異常がなくても、心筋梗塞などの重篤な疾患が起こるということを、実習期間中に伊賀先生の出会った患者様の話から体感させていただきました。そして、まず病歴聴取が大事だということを改めて痛感致しました。また、今回の実習では特に、心筋梗塞、狭心症の患者様のエピソードを数多く聞かせていただきました。実際に疾患を患った患者様から、お話を聞かせて頂いたことで狭心症、心筋梗塞のイメージが少しではありますが、つかめるようになりました。

また、診察の技術とは離れますが、勉強になったことの中に、定義を明確にすることの重要性についてです。具体的には MR の病態は、弁や腱索の異常によるものの他に、拡張型、肥大型心筋症など二次的に起こるものがあり、治療も異なるため、それを認識しておかなければならないということです。自分がいかに、今まで何も考えずに言葉を使ったり、聞いたりしているのかを痛感させられました。

#### ③不安を抱えてこられる患者様が安心して帰る外来の進め方を知ることについて

今回の実習で、先生が患者様に安心してもらうために心がけていることを多く拝見することができました。以下、具体的にあげていきます。まず問診についてです。先生は動悸を主訴とする患者様が何を不安、問題視しているのかを丁寧に聴取していました。そして解釈モデルが、患者様が今回の動悸が死を引き起こすものでないかどうかと不安に思っていることを引き出し、その解釈モデルに対して、安心なものはきちんと安心であると伝えていました。そのことにより、先生の外来の前は不安な表情を浮かべていた患者様も、問診後は不安な表情が消えて安心なさっていました。患者様の解釈モデルを引き出し、その解釈モデルに対する返信を行うことが、患者様にとって、満足度の高い問診へとつながっていると感じました。

また、当初立てた目標とは少しずれますが、先生が外来で工夫をされていることに、糖尿病の患者様に自己評価をさせていることがありました。先生の外来を見ていて、外来に来る糖尿病の患者様は先生に自己評価を聞かれるのを楽しみにしているように感じました。そして、そのことが糖尿病を良くしていこうというモチベーションにつながっていると思いました。また、血糖を上げるものは全てダメというのではなく、ライフスタイル、考え方に合わせ、食事の最後の一口を我慢するなどの継続しやすい糖尿病治療を行っていました。今まで私が見てきた糖尿病外来は血糖のコントロールが良くない場合、間食をしたことを問い詰めるというものであったので、先生の外来は今まで見てきた外来とは異なったものでした。

#### ④伊賀先生の現時点での開業医としてのやりがいを知るについて

今回の実習では伊賀先生の開業医としてのやりがいは、不安を抱えた患者様が来院され、外来の後に安心して、満足されることだと分かりました。

そして先生が、そのような診察を行うために気を配っている点を見せてい

いただきました。そのうちの 1 つに、先生は患者様の病気だけでなく仕事、家族背景まで理解していることです。先生の診察では、まず病気から入るのではなく患者様の家族、仕事の近況について話をすることで患者様が先生は私のことを良く知ってくださっていると思い、症状について話しやすくなっています。そして、問診で、疾患に関する情報、患者様の解釈モデルを聞きやすくなっています。患者様に満足してもらうために、ここまで患者様の背景を理解するのは並大抵のことではないと思いました。

他にも、先生は知識のブラッシュアップを行っていることです。正直、実習に来る前、開業医の先生方は勉強を行っていないと思っていました。しかし、今回の実習期間中に数名の開業医の方が集まる、勉強会に参加させていただきました。そこでは、開業医の先生自らプレゼンをして、自身の病院の患者様の治療方針について互いにディスカッションを行っていました（生涯医師である限り、勉強しなければならないというメッセージを伝えられたことはうれしいことです）。

また、伊賀先生が医療訴訟のコンサルトを受けている現場も見させていただきました。

その場では、疾患の有無は病歴聴取が大事であるのに、裁判の焦点になるのは検査から、疾患を疑うことができるかという的外れなものになっている現在の医療訴訟の現状を見ることができました。

## まとめ

最後に、今回の実習では、当初立てた目標に対してのみではなく、病歴聴取の重要性、死生観を持つことの大切さ、そして、現在の医療訴訟の一面についてと多岐にわたり、さらに、これから見ることがないであろうことを数多く学ぶことができました。また、この実習は先生と患者様との信頼関係があるからこそできる実習であることを痛感しました。

忙しい中、学びの機会を与えて下さり、未熟な私にも粘り強く指導して下さいました伊賀先生、そして、奥様、スタッフの方々、患者様、そして宿泊先を提供して下さいました中田様、本当にありがとうございます。そして、今回の実習を生かして、4月からの初期研修医生活を過ごしていきたいと考えています。そして、良い医師になれるよう、日々努力を重ね、将来、伊賀先生のように身につけたものを他の人へ還元できるようになりたいと思います。

2週間の実習、迷惑を多々おかけ致しました。しかし、根本的な物の考え方を学ぶことができ、大変勉強になりました。

本当にありがとうございます。

2013.3.9 名古屋市立大学 6年